

子ども読書支援センターニュース No.147

2016. 8. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成28年9月6日（火）11：00～11：20

○会場：山口県立山口図書館

○対象：幼児

【8月のおはなし会で使った本】

『おおきくおおきくおおきくなあれ』 まついのりこ/脚本・画 童心社 1983

『かきごおり』 樺山祐和/さく 福音館書店 2012

『ぺんぎんたいそう』 齋藤楨/さく 福音館書店 2016

『そらはだかんぼ!』 五味太郎/作 偕成社 2008

『しゅっぱつしんこう!』 山本忠敬/さく 福音館書店 2014

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『さくよさくよ』 齋藤楨/さく 福音館書店 2016.8 ¥389

「さくよ、さくよ、もうすぐさくよ。ふくらんだつぼみの先端から、ゆっくり丁寧に花びらを開いていく、ユリ。重なりあうたくさんの花びらが、ほわんほわわん、徐々に広がっていく、ハス。ヒマワリは、大きな花びらの内側にも小さな花をたくさん咲かせるよ。つぼみから花へ、その過程を鮮やかに美しく描いた絵本。「ちいさなかがくのとも173号」

<絵本-3, 4歳から>

『きもだめし せすじがこおるしかけつき!』 新井洋行/作 講談社 2016.6 ¥1100

きもだめしをはじめるよ。でもね、なくこはよんじゃだめ!あれ?だれかがなきながら、「おねがひがあるの」といっている。ページをめくると、そこには…火の玉をつれた幽霊が!次は「ぼくといっしょにあそんでくれる?」って。そこには…ひとつ目小僧!他にも、がいこつ、のっぺらぼうといったお化けが登場。夏にぴったり、ぞくぞくする愉快なしかけ絵本。

『ぼくちのシロ』 すずきみほ/著 白泉社 2016.7 ¥1200

ぼくちの犬シロは、散歩が好き。今日は公園に出発だ!途中、賑やかな商店街で、文房具屋のお爺さんがシロにおやつをくれた。公園の頂上についた時、強い風が吹いて、突然シロが猛ダッシュ!まっしぐらに向かった先とは…?元気いっぱい駆け抜ける一人と一匹を、どこか懐かしいまちの風景とともに描いた絵本。第4回MOE創作絵本グランプリ受賞作品。

<絵本-5, 6歳から>

『おたからパン』 真珠まりこ/作・絵 ひさかたチャイルド 2016.7 ¥1200

「おたからパン」という、おいしいパン屋さんに忍び込んだらどうぼう。でも、たからは見つからない。そこへやってきた店の親方に、「たからがほしいなら、ここではたらけい」と言われ、店で働くことに。毎日本水をくみ、粉をひき、生地をこね、おいしくなあれと願いをこめて男がパンを焼くうち、おたからパンが作れるようになり…。美味しく楽しい絵本。

『えのでんタンコロ』 倉部今日子/作 偕成社 2016.7 ¥1300

だいきちおじさんと孫のしょうちゃんが、江ノ電にのってお出かけ。おじさんは、子どもの頃に1両で走る単行電車「タンコロ」にのって花火見物に出かけた夏の思い出を語って…。江ノ島電鉄にかつて走っていた1両編成の100形電車「タンコロ」が、山や川をこえ、海風にふかれて走る姿と、昭和30年頃のどかな沿線風景とを温かな絵で描く。

『みる』 谷川俊太郎/文 高橋常政/絵 復刊ドットコム 2016.6 ¥2500

なにがみえるか、みてみよう。なんだろう、おおきすぎてみえないよ。うんとはなれてみてみたら…それは、地球。みる、いろんなみる。なにかがみてる、だれかがみてる…。谷川俊太郎が、イラストレーター、装丁家として活躍する画家と共演し、「みる」をとことん追求した、五感で感じる発見の絵本。シリーズ第8弾。1983年刊「ブリタニカ絵本館ピコモス1」（日本ブリタニカ社）の再刊。

<絵本-小学校低学年から>

『シロナガスクジラ』 ジェニ・デズモンド/さく 福本由紀子/やく BL出版 2016.7 ¥1600

シロナガスクジラはとてつもなく大きい哺乳類。地球上で一番大きな生きものなんだから。長さは30メートルにもなる。体重は160トンくらい、目は15センチくらい。よく見えないけれど、耳はすばらしくよくきこえて…。他に、食べ物はどうやって息をするの?など、実際おほとんど目にする事のないその姿を、子どもの目でいきいきと楽しく伝える。

<読み物-小学校低学年から>

『ロケットじどうはんぱい 快足スプレー』 山口タオ/作 田丸芳枝/絵 講談社 2016.7 ¥1200

運動会なんか大嫌い。だってクラス対抗全員リレーがあるから。太っていて走るのが苦手な4年生のアユムは気が重い。そんなアユムの前にロケット型の自動販売機が。売られているインチキっぽい商品の中で、アユムの目に留まったのが快足スプレー。靴にかけると速く走れるという。早速買って試してみるとなかなかいい。これで運動会はばっちり?遅いと文句ばかり言っていたクラスメイトの変わり様も必見。

『トンチンさんはそばにいる』 さえぐさひろこ/作 ほりかわりまこ/絵 童心社 2016.7 ¥1000

ゆうくんは、時々思いがけないことを言ったり、先のことを言い当てたり、ちょっと不思議な感性をもった男の子。ゆうくんを馬鹿にしたりからかったりする子もいるが、クラスメイトのひなたとまおはそんなゆうくんに興味津々。いろんなことが分かるわけをゆうくんに見ると「トンチンさんが教えてくれる」と言う。トンチンさんっていったい誰?人と少し違っているところを優しく見守る温かさ溢れる1冊。

<読み物一小学校中学年から>

『四人のおばあちゃん』 ダイアナ・ウィン・ジョーンズ/作 野口絵美/訳 佐竹美保/絵 徳間書店 2016.7 ¥1700

エルグとエミリーの兄妹には、訳あって4人のおばあちゃんがいる。ある日、兄妹の両親が揃って出張した日、4人のおばあちゃんが次々と二人の世話をしにやってきた。強烈な個性をもったおばあちゃんたちに、うんざりしたエルグは、魔法の機械を作り、試してみたら、本当に魔法が働き始め…? 『ハウルの動く城』を書いたイギリスを代表するファンタジー作家の作品。

<読み物一小学校高学年から>

『いとこの森の家』 東直子/著 ポプラ社 2016.6 ¥1400

福岡県糸島郡に引っ越した加奈子。今までの環境との違いに戸惑いながらも、仲の良い友だちもでき、糸島での生活に慣れていった。近所の森の近くに住む「おハルさん」は、おしゃれですてきなおばあさんだが、死刑囚の慰問に出かけたり、引き取り手のないお骨を引き取ったりする。何のために、どうして?加奈子は訳を尋ねに出かける。作者の小学生時代の体験をモデルに創作した物語。

<読み物一中学生から>

『Q→A』(キュー/エー) 草野たき/著 講談社 2016.6 ¥1400

「仲のいい友達いますか?」「両親のことが好きですか?」「恋愛をしていますか?」「勉強は何のためにする?」「中学生生活最後の学年をどんな年にしたい?」など、中学3年の5人が、様々なアンケートに書き込む言葉にたどり着くまでの思いや悩みを描く。Q&Aという手法で5人の人間模様も描きだす。『朝日中学生ウイークリー(現『朝日中高生新聞』)』連載を書籍化。

『ペーパーボーイ』 ヴィンス・ヴォーター/作 原田勝/訳 岩波書店 2016.7 ¥1700

1959年のアメリカ南部メンフィス。小学卒業の夏、友達の代わりに新聞配達を引き受けた「ぼく」には心配事があった…。吃音症で話すことに苦労している主人公が新聞配達で出会った奥さんやテレビ少年、よき理解者のスピロさんなどの出会いを通してコミュニケーションの問題を克服していく成長物語。2014年度ニューベリー賞佳作。「STAMP BOOKS」シリーズ。

『ボノボとともに 密林の闇をこえて』 エリオット・シュレーファー/作 ふなとよし子/訳 福音館書店 2016.5 ¥1700

コンゴにしか生息しない絶滅危惧種の類人猿ボノボの保護に全力を傾ける母を夏休みに訪ねた14歳のソフィー。母猿なしに育てることができないボノボの子どもを助けたソフィーは、勃発した内戦の混乱の中、たった一人、ボノボの子どもへの愛情を支えに懸命に生きのびていく。今も続くコンゴ民主共和国の紛争とその危険にさらされる人々や動物たちの姿を生々しく描く。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『マララの物語 わたしは学校で学びたい』 レベッカ・L.ジョージ/文 ジャンナ・ボック/絵 西田佳子/訳 西村書店 2016.7 ¥1400

パキスタンで暮らすマララは学校で勉強するのが大好きな女の子。しかし、武装集団タリバンから「女の子は学校へ行ってはいけない」という命令がくだり生活が一変する。父さんと一緒に女の子の教育を受ける権利を訴え続けるマララは、通学のバスに乗り込んできた男たちの銃弾をあびることに。その後手術を受け、回復後、国連本部でスピーチをする。史上最年少でノーベル平和賞を受賞するまでを描く。

『子どものうちに知っておきたい!おしゃれ障害』 岡村理栄子/監著 少年写真新聞社 2016.7 ¥1600

おしゃれ障害とは、おしゃれをすることで体に起こってしまうトラブルのこと。今や、小中学生でもするようになった、つけまつけ、メイク、茶髪、ピアス、カラーコンタクトレンズなどで起こるおしゃれ障害を、多くの写真とイラストで説明し、誤ったおしゃれに警告する。また、自分のコンプレックスを認め、自分らしさを大切にすることを呼びかける。著者は皮膚科のドクター。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『科学っておもしろい!なぜ?なに?なんで?わくわくサイエンス』 米村でんじろう/総監修 日東書院本社 2016.6 ¥3200

「冷たいコップに水滴がつくのはなぜ?」「海の水はどうして塩辛い?」など、生き物、体、身のまわり、地球・宇宙に関する科学の疑問について、豊富なイラストや写真を交えて解決する1冊。疑問にかかわる科学実験や自然観察も紹介。基本的には、1ページに1つの疑問と解説を掲載する。監修は、テレビ出演も多い人気のサイエンス・プロデューサー。

『よくわかる貿易 輸出入の役割から TPPの基本まで』 泉美智子/監修 PHP 研究所 2016.7 ¥3000

貿易ってどんなもの?輸出品と国産品のバランスを守るためにどんな工夫をしている?輸出品が増えるるとどんな問題起きてくるの?貿易の基礎から、TPPの内容まで、多くの図表やイラストでわかりやすく紹介。1つの疑問に対して見開き2ページで解説し、漢字にはすべてルビつき。外国人観光客の増加や「爆買い」という現象をコラムで取り上げる。

<ノンフィクション一中学生から>

『ミライの授業』 瀧本哲史/著 講談社 2016.6 ¥1500

京都大学で教鞭をとる著者が、全国の中学校に届けた特別講義を書籍化。21世紀の第1世代が未来をつくるために、世界を変えた改革者19人の人生から、5つの「未来をつくる法則」を伝える。夜間部の高校教師からノーベル賞を受賞した大村智、無職のシングル・マザーから世界的作家になったJ・K・ローリングのように自分を信じ、きみも「20人目の変革者」になろうと呼びかける。

<研究書>

『童話作家になる方法』 齊藤洋/著 講談社 2016.6 ¥920

『ルドルフとイッパイアッテナ』で講談社児童文学新人賞を受賞し、童話作家としてデビューした著者が、その作品が生まれたいきさつを語り、その後の作家生活で知った児童書をめぐる舞台裏を明かすなかで、物語作りの秘訣を伝授する。ルドルフのモデルは高校のとき出会った神社の黒猫…など興味深いエピソードが満載。『童話作家はいいか?』(2002年刊)の改題、加筆修正したもの。

【県内の動き】

★わかったさんスペシャル

～永井郁子さん読み聞かせライブ～

○日時:平成28年9月3日(土) 10:15～11:00 ○会場:山口情報芸術センタースタジオC ○定員:100名程度

○申込:不要 ○参加費:無料 ○照会先:山口市立中央図書館 (TEL:083-901-1040 Eメール:info@lib-yama.jp)

～絵本作りワークショップ～

○日時:平成28年9月3日(土) 13:00～16:00 ○会場:山口情報芸術センター多目的室

○定員:30名(山口市内在住小学生3年～6年) ○申込:電話、メールで ○参加費:無料

○持参物:水彩道具、クレヨンなど絵を描くための道具

○照会先:山口市立中央図書館 (TEL:083-901-1040 Eメール:info@lib-yama.jp)

★ビブリオバトル in 秋穂

○日時:平成28年9月25日(日) 14:00～15:30 ○会場:秋穂地域交流センター

○定員:バトル6名(要申込み・先着順) 観戦者30名程度(当日先着順) ○参加費:無料 ○締切:9月15日(木)

○照会先:山口市立秋穂図書館 (TEL:083-984-0065)

※子どもの本や読書についてのイベント情報をお寄せください。

発行:山口県子ども読書支援センター(山口県立山口図書館内) TEL:083-924-2111(代表) FAX:083-932-2817

ホームページ: <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp> Eメール: a50401@pref.yamaguchi.lg.jp